

長坂道子

美しく、サステナブルに Sustainably Elegant

人権・環境意識の高いスイスに暮らす長坂さんは、リシェス・オブリージュの名づけ親でもあります。自身が選び抜いた上質なフェアトレード作品を通し、サステナブルな生き方とスピリットについて考えます。



ながさか・みちこ ● 作家・ジャーナリスト。京都大学文学部哲学科卒業。25ans編集部にて約3年在籍後、1988年渡仏。欧米数都市に住み、執筆及び医療福祉のボランティア活動続ける。主な著書に「フランス女」(マガジンハウス)、「世界一ぜいたくな子育て」(光文社新書)。2008年、スイスでハイエンド・フェアトレードのセレクトショップを起業。商品や情報の発信を通じ、サステナブルなショッピングスタイルを提案

ガラスのように明晰な言葉で

- ① 従業員や取引業者に対し、適正な労働対価と労働環境を提供する。
- ② 地球環境の持続に配慮した商品開発、ビジネスモデルである。
- ③ 社会福祉の分野での貢献の役割を果たす。

「一年前、私がスイスで小さなフェアトレードのセレクトショップを立ち上げたとき、その核となるコンセプトがまさにこの「サステナブル」であったのだけれど、それをやや強引に三つのカテゴリーに分類するならば、

- ① フェアトレード
- ② エコロジカル
- ③ ソーシャル

ということになる。さらにそれぞれをものすごく簡単に説明すると、

昔から、こうした社会福祉的な目的をもった財団やNPOは、他にもたくさん存在している。けれど、この財団のつくる製品は、商品として立派に独り立ちできるものであるという点で、やはり「レアな存在」である。少し乱暴な言い方かもしれないが、たとえば教会のバザーというような場で提供される「手作り品」は、温かくほのぼのとしているけれど、多くの場合、プロの手になる商品の隣で同格に対抗できるものではない。「募金」と「ビジネス」の、いわば中間に位置するような立ち位置とでもいったらいいだろうか。それに対し、このガラスは、どこかの一流のミュージアムショップに置かれても、決して見劣りしないだけの作品力(＝商品価値)を備えている。

しかもこれは前述の分類でいえば②と③の条件を完璧に満たしている。廃棄されたガラスが、フィンランド仕込みの技術によつて新しくデザイン性のあるガラスに生まれ変わる。そしてその工程を担う人々へは自立の道が開かれる。

サ

ステナブル、サステナブル……と呪文のように何回唱えても、その意味するところは依然として曖昧。そういう(私自身を含めた)多くの人のために、今回は、少しこの言葉を解きほぐしてみようと思う。

写真のガラスを例にとってみよう。これはスイスのとある財団が生産するリサイクル・ガラス。70年代に創設されたその財団は、薬物依存や長期の失業、精神疾患といった理由で社会から疎外されている人々の社会復帰を目的としている。生活を共にし、適性や興味にあつた分野での職業訓練を受け、そして必要に応じたセラピーを受ける中、彼らは少しずつ「回復」と「自立」への道を歩み始める。

「地球に優しい」とか「エコ」といった、曖昧な表現ではなく、ガラスのように明晰な言葉で背景や理由を説明しうること。それもまた、日本でのサステナブル運動が真に意義ある離陸を果たすための不可欠な条件だと私は思っている。



スイスの社会福祉財団「テッラ・ヴェッキア」のリサイクル・ガラスは、薬物依存や精神疾患などの理由で社会参加を阻まれている人々に、自立の道を開くプログラムの一環として生産されている。フィンランドのリサイクル・ガラスの技術や美学を取り入れ、スイスの風光明媚な環境の仕事場でつくられるガラスは、どれもデザイン性にすぐれていながら、温かみのある作品に仕上がっている。耐熱性なのでミントティーやホットワインなどに用いてもお洒落。ガラス(大)15スイスフラン (小)13スイスフラン ピッチャー38フラン ※1スイスフラン≒¥83(2010年2月現在) ●お問い合わせ[fairy tale select]info@fairytalesselect.com http://www.fairytalesselect.com/